

# K.UNO NEWS LETTER | Vol.03

## ケイウノ オーダーメイド広報通信

毎月1回、ジュエリーやオーダーメイドに関する、さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けする「ケイウノ オーダーメイド広報通信」

### 世界初のダイヤモンドカットを 研磨技術で実現したい



ケイウノは全国に38店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。ケイウノが取り組む活動や、サービスについて広報誌で発信しています。

今回登場するのは、ケイウノでダイヤモンドの研磨士として活躍する功刀慶仁さん。ジュエリー作りのすべての工程を、日本の自社工房で行うケイウノには、さまざまな製作工程に携わるクラフトマンがなんと180名以上。この人数はまさに日本最大級。全国の工房で製作からアフターサービスまでさまざまな現場で活躍するクラフトマンの中から、入社以来ダイヤモンド研磨一筋という功刀さんに、「ダイヤモンドを研磨すること」について、お話を伺いました。

#### 功刀 慶仁

新事業製造課所属

東京出身。和太鼓インストラクターを経て、2008年ケイウノ入社。ダイヤモンドの研磨士として日々ダイヤモンド研磨の研究開発・企画に携わる。趣味は、サバイバルゲーム。

### 和太鼓を打つ手からダイヤモンドを研磨する手に

ケイウノは「想いをカタチに…」というプライダルに対する想いから、ダイヤモンド原石のカット、そして研磨を自社工房で行っています。日本人のもつ正確で繊細な技術で、美しさにこだわったメイドインジャパンの輝きを生み出しています。現在の日本では、自社で研磨を行うブランドは稀有な中、功刀さんは現在研磨士として活躍しています。入社して10年目という功刀さん。少し変わったキャリアをお持ちと伺いました。

「前職は和太鼓のインストラクターでした。高校で和太鼓に出会い、卒業後一度専門学校に行ったのですが、何か違うなと和太鼓に戻って、一般の方に教えつつ舞台演奏をこなしていました。でも、将来のことを考えた時、ものづくりがしたいと思って28歳の時にジュエリーの専門学校に入り直したんです」「学校では金属加工に興味がありリングの製作を学んだのですが、ケイウノから内定の電話をいただ

いた時に、ダイヤモンドの研磨をやってみないかと。ケイウノがダイヤモンドの加工を始めて1年くらいの時で、ちょうど人員を増やそうかというタイミングだったんです。思いがけないダイヤモンドとの出会いでしたね」

入社後、師匠の指導の下、ダイヤモンド研磨と向き合うことになった功刀さん。最初に挑んだのは“リカット”といって、すでにカットされているダイヤモンドを研磨して、ひと回り小さなダイヤを削り出す作業。練習用に用意された0.6カラットのダイヤモンドを、一回り小さく削っては研磨し、また一回り小さく削っては研磨する、という練習をひたすら続ける日々。最初の1つを研磨し終えるまでに有した期間は、なんと1ヶ月とか…。

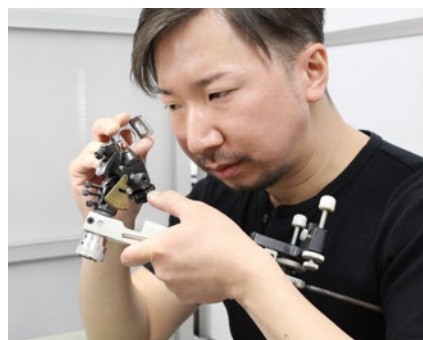
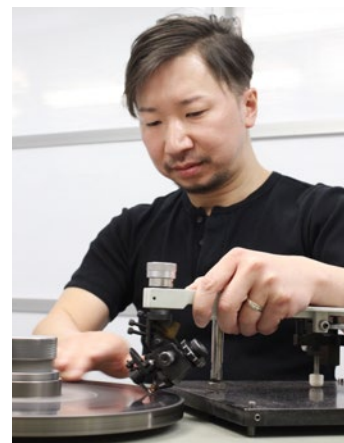
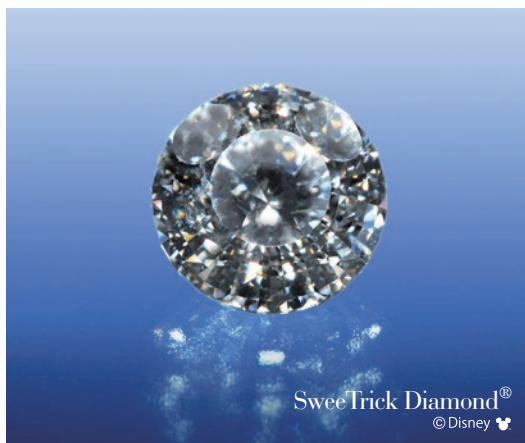
「研磨は、トングという機材にセットしたダイヤを、毎分3000回転で回っている鉄板に接触させて削

るんです。鉄板の表面にはダイヤモンドの微細な粉末を塗布してあって、ダイヤ同士との摩擦によって研磨します。世界中で最も硬度の高いダイヤモンドは、ダイヤモンドでしか研磨ができません。最初毎朝出勤して、8時間とにかく研磨する1ヶ月。トレーニング中には慣れないことも多くて、大変でした。例えば、ダイヤモンドのキューレット(底部の先端部分)は、真上から見たときに石の中心にあるのが最良なのですが、中心から0.4%ズレてしまうと精度が落ちてしまいます。私が研磨した石のキューレットが、仮に0.5%ずれていた場合、その時の数値は0.00548mmです。髪の毛1本の太さが平均0.08mmなので、かなり細かな微調整をしていました。わずかな違いでダイヤモンドの輝きに変化が起こるので、苦労はしましたが、少しずつダイヤモンドの形が変わっていくのがだんだんと楽しくなっていました。磨かれて煌きを放っていく姿を見るのはとにかく嬉しかったですね」

## 技術の向上は、お客さまの想いを叶えるために

日本でも数少ない功刀さんのような研磨士を育成し、自社でのダイヤモンドカット・研磨にこだわるケイウノは、2016年1月、ダイヤモンドカット技術で特許を取得しています。

「特許を取得したのは、ダイヤモンドを含む宝石類の表面に大小の略円状を明確に視認できる新しいカット技術なのですが、「Sweet Trick Diamond®」のミッキーマウスのシルエットは、これを応用しています。



「こうした技術をさらによりよい形に研究したり、試作したりするのが現在の僕の仕事ですが、それはすべてお客様の希望を実現するためのこと。まだトライの段階ですが、例えば、思入れのあるモチーフに因んだダイヤモンドカットをご希望ならば、それに適した原石から提案して、すでにあるカットではなく完全なオリジナルのカットで仕上げるとか……。できる限りお客様の想いを形にしていきたいと思っています」



ストイックなまでにダイヤモンド研磨と向き合う功刀さんに、今後の目標を尋ねたところ、こんなお返事が返ってきました。

「世界的にまだ実現されていないカットの方法を編み出し、実現してみたいですね。ダイヤモンドは研磨できる形とできない形があるんです。でも僕はそのできない形をどうしても実現したい。まだ詳しくはお話できないのですが、現在ない

ものを一番最初につくり出すというのは、ものづくりに携わる者にとっての醍醐味ですから」

功刀さんが取り組むダイヤモンド研磨。特定のイベント期間限定になりますが、ケイウノの店頭でデモを実施しています。実際の研磨機を持ち込み、功刀さん達研磨のプロのスコ技を实际目にする事ができるだけでなく、タイミングによっては実際に研磨の体験することもできるのだとか。

「普段は、カットや研磨の研究をしたり、企画を考えたりしてずっと工房にいますが、店頭で直接お客様とお話ができるこの研磨体験はまた楽しい時間です。本物のダイヤモンドを研磨するのはめったにない機会なので、ぜひ開催しているお店にいらしてください」イベントの情報は、ケイウノのHPでチェックいただけます。ぜひお出かけください。

## 4月の誕生石 ダイヤモンド

ダイヤモンドの名前は、その硬さから"征服されざるもの"を意味するギリシャ語の「adamas(アダマス)」に由来しています。永遠の愛を象徴する宝石として、婚約を祝う指輪に使用され始めたのは、ビクトリア王朝時代といわれています。

右の写真は、何億年もの時間をかけて生まれたダイヤモンドの原石。ケイウノでは、ダイヤモンド原石の販売もしています。プロポーズの際に彼女にダイヤモンド原石を贈るのもロマンチックで素敵。未来への一步を踏み出したふたりのためにケイウノの研磨士がカットを行い、輝きの息吹を吹きこんでいきます。ひとつの原石からふたつのダイヤモンドをカットした「トゥーアズワンダイヤモンド」を、大切な人と分かち合えば、絆を強く感じられるはず…。

